

第 1 回検討会における主なご意見等を踏まえた論点整理

1. 自動車関連情報の更なる利活用

① 将来実現されるべきサービス・産業革新への活用等

(新サービスの創出・産業革新)

- ・ 中古車購入者に対する自動車の所有者、整備、事故履歴等の提供
- ・ 自動車の運転特性や走行距離に応じた自動車保険商品の開発
- ・ 零細企業の多い整備業界において、ITの活用による整備情報の共有等、会社の規模によらず、十分な整備を可能とするサービス。
- ・ 盗難車両の搜索等への活用
- ・ 不正請求等、保険を悪用する者を排除できるサービス

(行政の各種制度設計等の公的サービスの充実)

- ・ 自動車の検査・点検整備情報等の収集・分析を通じ、保安基準緩和・強化、点検整備項目の見直し、リコール部品の早期発見
- ・ 自動車の運転・整備情報の収集・分析を通じ、単純な経過年数ではなく、使用状況等に応じた自動車関係課税(自動車税の重課)の制度設計

(今後検討を進める上での必要な視点・考え方)

- ・ 10年後のコンパクトシティ化や少子高齢化等の社会全体の変化や、それに伴う自動車利用環境の変化等を見据えた視点。
- ・ 関係業界からのヒアリング等による詳細なニーズ把握を通じた課題の可視化。
- ・ 携帯電話でできる事は車でもできるといった観点からの更なる自動車へのITの導入可能性の追求。
- ・ コンテストなど様々な意見の聴取によるアイデア出し。
- ・ 「自動車ユーザー目線」を基本とした検討。

②実現するために必要な手立て・課題

(競争領域と非競争領域)

- ・情報の利活用にあたって、個社が努力する余地を残すためにも、企業間における競争領域と非競争領域に分けて実現方策を検討する。

(仕組み)

- ・情報は個々で保有し、求めに応じて、車台番号等のキーとなる情報によって、基盤となるネットワークを通じて情報を収集できる仕組み。
- ・サービス開始時は、利用者によって新たなサービスが誘発されるような環境・プラットフォーム。
- ・既存の企業利益を損なわないよう、情報の提供にあたって対価が支払われる等、情報を利用する側と提供する側が共にメリットのある仕組み。
- ・情報の提供する側を安心させるためにも、国等の公的な機関がポータルサイトを構築し情報を集約・提供する役割を担う仕組み。
- ・自動車ユーザーにとって使いやすい仕組み。

(課題)

- ・情報利用料金等を抑えること。
- ・個人情報やプライバシーの保護の観点からの対策。
- ・情報連携のための業界間・企業間のデータ形式の統一化等の工夫。

2. 自動車関連手続きの利用環境の向上

①実現すべき自動車関連手続きの利用環境

(OSSの抜本拡大)

- ・「OSS稼働地域の全国拡大」、「OSS対象手続きの移転・変更・抹消登録や継続検査等の全手続きへの拡大」及び「OSSの更なる利用促進」
- ・軽自動車関連手続きへのOSSの導入。

(個人番号の活用)

- ・個人番号を自動車関連手続きに利用することによる更なる利便の向上

②実現するために必要な手立て・課題

(OSSの抜本的拡大)

- ・OSS稼働に必要なシステムを、個別県毎に開発・使用するのではなく、いわゆる“クラウド化”して全体のコストを引き下げることにより、自動車ユーザーにとっても利用しやすいシステムを構築。
- ・OSSの利用を促進するためのインセンティブ措置の検討。
- ・個人番号を利用して、ワンストップサービスの一層の利便向上を図る。

(課題)

- ・他の手続きまで含め、個人番号の活用により、将来自動車関連手続きの利用環境をどの程度まで向上させる事を目指すべきか。
- ・“なりすまし”犯罪等へのセキュリティー確保の観点からの対策。